

農業セミナー生の視察研修会を開催しました

酪農後継者育成の一環として県内全域の若手酪農家を対象とした農業セミナー視察研修会を3月18日に開催しました。視察研修先は東京都多摩郡瑞穂町の清水牧場・ウエストランドファームで「ICTを活用した効率的酪農経営と良質生乳を活かした6次産業化」をテーマに実施したところ、酪農家8人が参加しました。

清水牧場・ウエストランドファームは、東京で飼養頭数が最大規模の酪農家で、衛生的な牛舎で搾乳ロボットや哺乳ロボットを一早く導入活用され、省力的な牛群管理を実践し、「東京牛乳」出荷者として生乳生産を行っています。経営者、経営者の父、従業員の3人で牧場と自給飼料畑の作業に従事されています。

現在、搾乳牛45頭をフリーストールで飼養し、搾乳ロボットで24時間搾乳しています。また、代々飼養してきた牛の血統を重視し、搾乳ロボットに馴染まない牛15頭については、つなぎ牛舎で飼養し、従来のパイプラインで搾乳をしています。子牛の哺育についても、哺乳ロボットを活用し24時間子牛が自由に飲乳できるシステムで、バラつきのない良好な発育を実現していました。これらロボットのおかげで省力化と増頭の両立を図り、「東京牛乳」の原乳として出荷されています。

さらに生乳生産基盤を拡大構築しながら、ジェラート等の製造販売で6次産業化を図り、ニーズに合致した商品づくりを実践し、都市近郊の顧客をつかんで盛況を博しています。6次産業化に取り組んだ動機は、地域に根差した酪農業を地域の方たちに理解していただきたいという想いからだそうです。商品コンセプトは「自分でしか作れない味」で、関東近隣の酪農家を作るジェラートを食べ歩いて、自牧場の生乳本来の味を生かせるジェラートの風味を迫りました。清水牧場を全面に押し出すため、ブランドマークは清水家の家紋にしたそうです。

参加者は、経営者の話に熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われました。経営の省力化・合理化に大いに参考になるとともに、JAと連携してジェラート販売に取り組む参加者は、商品コンセプトづくりの考え方のヒントになったとのことでした。



(写真) 視察風景 左：搾乳ロボット管理室、右：ジェラート製造販売施設